

アタッチメントスタイルがソーシャルサポートと 学校生活スキルを媒介してストレスに及ぼす影響

田 村 百 絵

1. 研究目的

本研究は、中学生の現時点における愛着スタイルが、友人・教師それぞれからのソーシャルサポートの認知、学校生活スキルを媒介し、コロナ感染拡大による現在のストレス状態にどのように影響するかを明らかにするものである。心身のストレスを低減させるために、学校生活で生徒自身のスキル向上やソーシャルサポートのどこに働きかけることが重要となるかを明らかにすることができると考えられる。

2. 研究方法

関西私立中学校の生徒を対象として、追手門学院大学の全学研究倫理委員会の承認を受けて、web調査を実施した。任意で調査にご協力いただいた生徒は1年生154名、2年生50名、3年生120名、そのうち男性158名、女性166名の計324名であった。

使用した尺度はアダルト・アタッチメントスタイル尺度、このアタッチメントスタイルは、最も親しい人を思い浮かべさせて、選択肢から選ばせている。そしてソーシャルサポート尺度、これは教師からのソーシャルサポートと、友人からのソーシャルサポートの認知についてそれぞれ回答を求めた。学校生活スキル尺度、ストレス反応尺度の4尺度を使用した。

3. 結果と考察

アタッチメントスタイルの回避と不安のそれぞれが学校生活スキルやソーシャルサポートに別々で影響を与えるのか、類似した影響を与えるのかを検討するため、重回帰分析を行った。その結果からアタッチメントスタイルからソーシャルサポートの認知への影響、ソーシャルサポートが学校生活スキルの獲得に及ぼす影響、そこからストレス反応を低減させる因果モデルの想定を行った。アタッチメントスタイル、ソーシャルサポート、学校生活スキル、ストレスを潜在変数としてAmosを使用して共分散構造分析によるパス解析を行った。この結果から、回避傾向、不安傾向が高いアタッチメントスタイルはソーシャルサポートの知覚を低下させるが、ソーシャルサポートの知覚が増加することにより学校生活スキルを高めることができ、ストレスを軽減させることができる可能性が示唆された。

本研究では、アタッチメントスタイルがソーシャルサポートや学校生活スキルを媒介してストレスにどのような影響を及ぼすか検討した。ソーシャルサポートの知覚量が増えること、そのためには生徒間や教師と生徒のコミュニケーションの場を増やすこと、お互いに声をかけやすい関係性を築くことや、学校生活スキル、特に自己学習スキル、自分に合った勉強法や自分の意思を重視して行動に移すことができるスキルを獲得することによって、ストレスの軽減が可能であることが示唆された。